

「長いも」包装機械化 箱詰めも、選果場新設備 J A 帯広かわにし

2020年4月4日

J A 帯広かわにし（有塚利宣組合長）は、管内9 J A で生産する「十勝川西長いも」の選果場（帯広市別府町）に、選別、包装、箱詰め作業を自動化する設備を導入した。省力化を図ると同時に、個別包装でナガイモの鮮度を保持する。



ナガイモを個別包装し、機械での箱詰め作業を実現した設備

従来の選果場の原料搬入部分など一部を残し、機械を一新した。1月に着工、2月26日に設備の引き渡しを受けた。試運転を経て、3月から本格稼働している。工場の出荷能力は従来より3割増の1日100トン进行予定している。

箱詰め作業は機械化して人手不足に対応。箱詰めにはおがくずを使用していたが、ポリプロピレンの袋で1本ずつ自動で個別包装する。おがくずの処理費用がなくなり、ナガイモの鮮度も保持。また、精度の高い立体映像

による選別ができるようになった。

袋詰めで店側の手間がかからず、個包装により1本ごとのトレーサビリティ（生産流通の履歴）も可能に。有塚組合長は「グローバルな農業に向かう素晴らしい施設。人がやっていた部分を機械が行い、コストの安い選果に取り組んでいく」と話している。

総事業費は31億7,000万円。約5割は国の産地パワーアップ事業の補助金を活用した。2019年の十勝川西長いもの生産量は前年比24%増の約2万3,000トンを予定。



出荷能力が従来より3割増となる選果場

ビート紙筒 中国に 普及へ技術協力 日甜

2020年5月13日

日本甜菜製糖（東京、恵本司社長）は今年から中国で、ペーパーポット（紙筒）を利用したビート栽培の普及に向けた技術協力に乗り出している。同社が長年培ってきた紙筒栽培技術で、気象条件の厳しい同国北部でのビート事業発展に寄与することで、海外展開に弾みをつけたい考え。

技術協力するのは、同国内モンゴル自治区でビート糖業などを手掛けるグループ「天圃（てんぽ）集団」傘下の「天圃農業科技発展有限公司（天圃農技）」。同グループは全道のビート作付面積を上回る農地で直播（ちよくはん）栽培してきたが、寒冷な気候や強風のため、収量・糖度が低いことが課題という。

そこで、天圃農技は生育日数を確保できる紙筒に着目。元道立農業試験場の佐藤久泰氏の指導も受け、紙筒栽培導入を模索してきた。昨年の試験栽培では直播に比べ8割近い収量増につながったとし、行政もこの成果に注目。昨年10月には同自治区最北部アルグン市の市長も同社関係者と共に来日し、本格導入に向けて日甜に協力を依頼



天圃公司2020年育苗現場

天圃農技で今春に行われたポット苗づくりの様子(日甜提供)